

# 「令和元年版県民活動白書」の概要

## 第1部 県民活動の現状と課題

○NPO法人数は、平成30年度の設立認証等が10法人である一方、14法人の解散により、430法人（対前年度比4法人減）となり、減少している。

○県民活動団体数は、2,374団体（対前年度比60団体増）であり、着実に増加している。

### 【県民活動団体数の推移】

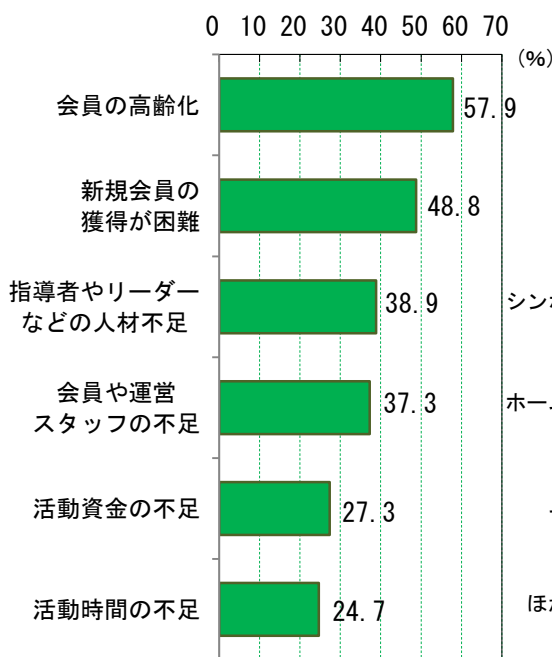
区 分	H26	H27	H28	H29	H30
NPO法人数	427	430	431	434	430
県民活動団体数	2,071	2,196	2,252	2,314	2,374

○団体が抱える問題は、「会員の高齢化」が最も多く、次いで「新規会員の獲得困難」、「指導者やリーダーなどの人材不足」など人材に関するものが上位を占めている。

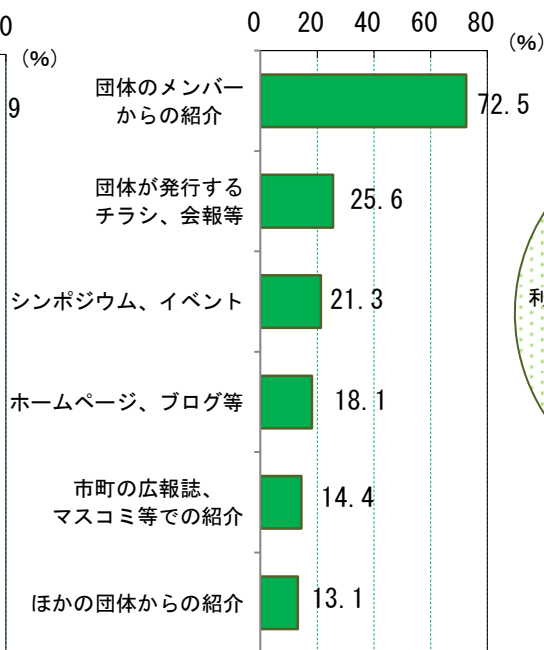
○新規会員の獲得により会員増があった団体は2割弱にとどまっている。また、獲得の手段は、「団体のメンバーからの紹介」が7割超と最も多く、次いで「団体が発行しているチラシ等」となっており、効果的な獲得の手段が求められる。

○やまぐち社会貢献活動支援ネット（あいかさねっと）を利用したい団体は3割弱にとどまり、「利用予定なし」が約5割となっており、利用しやすい仕組みづくりが求められる。

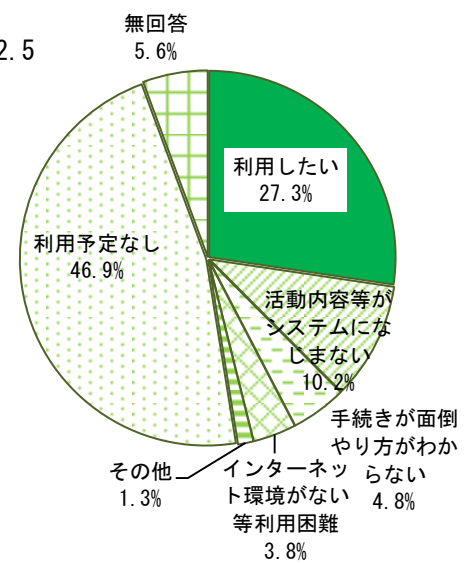
### 【活動団体が抱える問題】



### 【新規会員獲得の手段】



### 【あいかさねっと利用意向】



## 第2部 平成30年度における県民活動関連施策（実績）

### 基本方針1：県民活動への理解と参加の促進

新 県民活動推進事業	○「ボランティア・チャレンジ」の実施 4～8月を「ボラチャレ推進期間」として、重点的に取り組んだ。 [実績]366 イベント、参加者数 約12万人 ○若年層を対象としたボランティアイベントの開催 大学生と県民活動団体とをマッチングするイベントを実施した。 [実績]2会場、学生参加者数 65人
新 山口ゆめ花博開催事業	○運営ボランティアによる県民参加を通じて、県民の知恵・技・エネルギーを結集し、「山口ゆめ花博」を開催した。 [実績]運営ボランティア参加者数 延べ4,383人

### 基本方針2：県民活動団体の自立・持続的発展に向けた環境づくり

ソーシャルビジネス創出支援事業	○ビジネスプランコンテストの開催や立上支援金の助成により、ソーシャルビジネスの事業化を支援した。 [実績]受賞者(5者)への立上支援金計381万円
-----------------	--

### 基本方針3：県民活動団体と多様な主体との協働の推進

新 県民活動推進事業	○「パートナーシップ」会議の実施 団体、企業等の多様な主体が一堂に会し、花博の成果を県民活動のさらなる活発化に繋げるための方策を話し合った。 [実績]H30.11.23開催、参加者数100名
拡 資源循環型社会形成推進事業	○県民総参加による3Rの取組を推進するため、未利用の食品を必要な施設や人に届けるフードバンク活動を行うNPO団体を支援した。 [実績]モデル事業の実施(山口市、萩市)

## 第3部 令和元年度における県民活動関連施策（計画）

### 基本方針1：県民活動への理解と参加の促進

新 県民ゆめはなアクション推進事業	○県民活動の活発化を図るため、花博のボランティア等への情報発信、マッチング等を実施
拡 県民活動推進事業	○若年層を対象としたボランティアイベントの開催 大学生向けボランティア体験説明会やイベントを実施 ○参加しやすい環境づくり あいかさねっとの改修及び「やまぐち健幸アプリ」との連携

### 基本方針2：県民活動団体の自立・持続的発展に向けた環境づくり

ソーシャルビジネス創出支援事業	○ビジネスプランコンテストの開催や立上支援金の助成により、ソーシャルビジネスの事業化を支援
-----------------	---

### 基本方針3：県民活動団体と多様な主体との協働の推進

拡 県民活動推進事業	○県民活動団体の財政の基盤強化と協働の推進 企業と団体が参加した交流会の開催など、企業の人材や知識を団体の活動に活かすための環境づくりに取り組む
新 フードバンク活動促進事業	○食品ロス削減のため、企業等と連携し、未利用食品をフードバンクに寄贈するシステムの構築を図り、活動の県全域への拡大・定着に向けた取組を促進

## 第4部 市町における取組

- 市町における県民活動に関する条例・計画の状況や活動概況、取組方針等
- 県・市民活動支援センター等の県民活動支援拠点（機関）の取組